

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>大和大学情報教育委員会にて、プログラムの履修・修得状況の報告を定期的に行い、委員会内で学生の出席状況や授業の進行状況を把握している。また、Google Classroomを活用し、受講者毎の課題の提出状況を把握することができる。これらの点検の結果を踏まえ、同委員会にて次期開講の授業実施形態などの改善に結びつけている。</p> <p>「AIデータサイエンス入門」の講義は令和5年度より全学で必修化するため、授業実施形態を見直すとともに、指導者の追加配置、学習環境のオンデマンド化を推進していく。</p>
学修成果	<p>令和3年度に行った授業では、「AIデータサイエンス入門」の成績評価の平均は79点、「情報処理」関連科目の成績評価の平均は88点であり、当初想定していた点数よりも良い結果となった。また、学生による授業評価アンケートでは、「この授業はよく理解できましたか」という問いに対する点数は「AIデータサイエンス入門」で4点満点中2.88点、「情報処理」関連科目で4点満点中3.32点であり、学生は十分な学修成果を得られたものと考えている。</p> <p>情報教育委員会で授業評価アンケートおよび講義の成績に基づいて、受講者の学修成果の状況を判断し、結果の分析を行っている。今後もこの活動を続け、プログラムの継続的改善につなげる方針である。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>学期末の授業評価アンケートのほか、適宜レポート課題または授業アンケートを実施し、受講者の理解度を確 認している。また、この結果に応じて授業内容を随時見直している。LMS上でこれらの情報を管理するととも に、学生の理解度に応じた授業資料や補足資料の提供を行っている。 学期末の授業評価アンケートは、FD委員会で取りまとめ、その結果を各教員にフィードバックする。各教員はそ の結果をもとに授業改善計画を作成することにより、繰り返し授業の改善・向上に努めている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>履修者に対して授業評価アンケートを実施しており、授業全体の満足度、説明のわかりやすさ、教材のわかり やすさ、授業が役に立ったかなどを調査し、その結果を公表することで、後輩等他の学生への推奨度が向上す るように改善を行っている。分析結果については各教員にフィードバックを行い、次学期以降の授業に活用して いる。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達 成・進捗状況</p>	<p>既に必修である「情報処理」関連の科目に加えて、令和5年度に「AIデータサイエンス入門」を全学で必修化す る計画である。これを達成するため、学修環境のオンデマンド化、BYOD演習環境等のインフラ整備や、新たな 教員の配置等を実施中である。 学生の興味を引くように、学生が将来使用するような数理・AI・データサイエンスの利活用および学部に応じて 各専門分野に関連した内容の授業を展開する予定である。</p>

<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>同窓会を管轄する振興会という組織を通じて、学部あるいはキャリアセンターが本学の卒業生の進路状況を継続して把握している。本教育プログラムを修了した卒業生はまだいないが、本教育プログラムを修了した卒業生についても卒業後の状況調査や就職先企業・団体への調査を行い、活躍状況や企業評価を把握する計画である。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>IT企業の現役の役員や研究員などを情報教育委員会に外部評価委員として年に2回招聘し本教育プログラムを評価して頂き、その内容をもとに授業内容の見直しを実施する計画である。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>社会の身近なサービスが数理・AI・データサイエンスによって実現されていることを学生に気づかせるとともに、学生の興味関心を引くような授業内容にする工夫をしている。また、授業において各学部の専門領域に関連するデータを題材にしてデータ分析を行うことにより、それぞれの領域にデータサイエンスが深く関わっていることや、卒業後の進路にも役立つものであることを理解させる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>授業評価アンケートおよび課題レポートの内容から受講者の理解度を確認し、FD委員会にて分析を行い、その結果を情報教育委員会にて報告している。更に、情報教育委員会では、報告内容をもとに授業内容の見直しおよび改善を行っている。 今後、学習環境のオンデマンド化を推進していく上で、対面での授業に比べて水準を落とすことのないように授業内容を十分検討するとともに、学生が繰り返し復習することができ、容易に教員に質問することができる環境を構築するべく検討している。</p>